

## 謝 辞

蓮江 和夫

### はじめに

小生は、神奈川大学大学院外国語学研究所博士前期課程欧米言語文化専攻の学生で、英米文化に所属して3年目になります。3年目は前期はネットの授業で大学に行っておらず、ZOOMの授業で、通学の必要がないので、神大の坂を登らずに済みました。元々授業のない日には学校には行ってないので大学事情はわからずに卒業になりそうです。2年間で欧米言語文化専攻で知り合いになった学生さんたちは昨年度卒業したと思います。小生は定年後、社会人入試で大学院に入りました。社会人の入学試験は面接だけということをして大学のHPで知り、一般入試では予備知識がないので、面接に合格の可能性に賭けました。専門は理系でしたので、文系の予備知識は高校で学習した程度でしたが、留学して英語は多少出来ると思っていたので、英文系分野を希望しました。

### 先生との出会い

大学院のHPから英文系の先生方の研究歴を調べ、ネットで入手できたMcOmie先生の幕末期の論文はどれも面白かったので、採用していただけるかメールを差し上げました。ちなみに単行本は難解でした。受験前には先生を訪問し、どのような研究ができるか概略を教えてくださいました。HPではお若そうだったので、あと3年で定年されるというのは意外で、社会人は最大4年間在学できることになっていたのも、1年短くなるのは残念には思いましたが、面倒を見ても良いとお言葉をいただきました。御定年前はいろいろ雑用があって忙しい時期なのに良く採用していただけたと思っています。入学前は欧米言語文化専攻のHPを見ていたので、先生方は実は更に細分化された分野に分かれていることには気づかず、選択できる科目も限られていることを入学後知りました。

### 先生の指導

小生がMcOmie先生の最初で最後の大学院生というのは意外でした。授業では、小生の他に先生の授業を採る学生がいないので、いつも先生の授

業は1対1の授業ばかりで、充実していたと言えますが、休む暇がないので疲れました。先生の授業では教科書がありましたが、先生は説明の時に資料も見ずに、事件などの起きた年や内容、人物名、文献名、著者名などを次々とホワイトボードに書かれるので、良く覚えられるなど感心していました。小生は数字を覚えるのは苦手で、歴史上の人物名を覚えるのに苦勞しているので余計に感心してしまいます。授業では、原文が理解できず、先生の説明でも良くわからず、訳本を見てもやはり理解できないこともありました。ときには、ボードを写している間に、教科書の他のページに進んでいたりすると、どのページの説明をされているのかわからなくなることもありました。英文で一旦説明場所がわからなくなると、一致する場所は見つけるのは、簡単ではありませんでした。大学院の授業では学期末にレポートの提出が要求され、1年の前期のときは、指導教授なので、甘くしてくれて試験はないだろうと思っていたので、大いにあわてました。先生は優しい人柄で、授業も丁寧な面倒見ていただきましたが、試験になると厳しかったです。

学部の先生の授業を1年間、履修しました。先生はボードの書くのが速くて、ときにはスライドの説明も併用されていたので、ノートを録るのに苦勞して、書き漏らしたときにどんな説明をされたかを質問に行ったところ、携帯でボードを撮ればよいとアドバイスを受け、活用するようになりました。他の学生さんたちは携帯を活用していることを初めて知りました。携帯での撮影とノートの筆記と忙しい授業でしたが、プリントが配布されていたので、授業の準備や復習にとっても役立ちました。学部の学生さんたちが、先生の英語だけの授業が理解できているのは驚きました。小生は、3年で卒業予定ですが、練り上げ卒業できれば、先生の定年前の忙しい時期に重ならず済むと思っていましたが、卒業に必要な単位数を2年間では履修できず、結局3年間お世話になることになりました。修士論文の題は、大体の年代が決められただけで、あとは自由ということで、元々にも予備知識がないところから始めたので、決まるまで大いに苦勞しました。

## 結びにかえて

先生は次の本の出版準備のために、休日も図書館通いをされているようです。

先生のご専門分野は、多面的で、いろいろな勉強ができて面白いと思うのですが、学部から大学院に進む学生がいなかったのは不思議です。授業が難しかったのかもかもしれません。

教授室には沢山の資料があって、迷路かと思うくらいで、どこから入るのか最初は迷いました。最初の授業のころは他の先生方と同様に、先生のお部屋での授業でしたが、場所が狭いとおっしゃって、気を使っていたいただきました。小生にとっては、ノートに書くには、机がある方が便利だったので、後では広い教室で授業をしていただきました。ホワイトボードもあってノートに英文が多く入るようになりました。教授室には、これからの著作に必要な資料も沢山あるのではないかと思います。定年された後は、どこに収納されるのでしょうか。多分文系の先生ですから御自宅にも大きな書斎をお持ちと想像しています。小生の場合は定年後未整理資料のスペース確保に苦労したので多少案じています。先生の次作は、時代的には、小生の論文と重なりそうとのことですが、小生の修士論文には間に合いそうもないのは残念です。これからも斬新な著作を出されることを期待しております。

McOmie 先生、長い間のご指導ありがとうございました。

また、長い間、神奈川大学のためにご尽力され、お疲れ様でした。